

キーワード：

学校組織・指導体制の改善
基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

学力向上に向けた取組

函館市立 中部小 学校

1 課題

自分の考えをもち、自信をもって学習できる子の育成
基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、主体的に学習する子の育成

2 課題解決の具体策

学習の約束設定 読書習慣の確立 朝自習の設定の工夫 校内研での取組
T・T体制の強化 標準学力検査・知能検査の実施

3 取組の概要

まずは全校統一の学習常規を作成，各教室に掲示し，学習に向かう心構えの植え付けを図った。

毎月第2，第4週を「朝の読書週間」とし，8：25～8：35を全校一斉の読書の時間に充てた。各担任も職員朝会終了後速やかに教室へ行き，児童と一緒に読書をする。

毎月第1，第3，第5週を「チャレンジタイム週間」とし，8：25～8：35を全校一斉の自習の時間に充てた。水，木，金曜日は職員朝会を行わず，担任が教室にいて必要に応じて指導をする。主に反復学習を行う。校内研究に於いて，児童一人一人の実態の把握に努め，その上で算数的活動を意図的・計画的に取り入れた指導法を工夫することによって，基礎・基本の定着を図り，生き生きと自信をもって学校生活をおくれるようにしようと取り組んだ。



算数の時間に於いて，習熟に遅れのある子を週5時間完全に個別学習化する特別支援体制を立ち上げるとともに，知恵の予算で週2日，学生ボランティア制度を利用して週1日外部から時間講師を招き，1，3，4年生で週3時間，5，6年生で週2時間T・Tの体制を組めるようにした。

これらの学力向上プランの成果を検証する手段として，また児童の学力面における実態を把握するために，毎年3学期に継続して目標基準準拠標準学力検査（CRT，全学年）と知能検査（1，4年）を実施することとした。

4 成果と課題

指導法を工夫する教師の授業力を高めたり，学習の補充をしたりすることにより，子供の学習へ向かう姿勢が向上し，それに伴って，自分の考えを発表したり，友だちの考えを聞こうとしたりするようになってきた。

子供たちの学力は向上してきてはいるが，まだ十分とは言えない。教師が指導にあたる自習の時間をさらに設定したり，家庭学習の習慣をつける方策を考えたりする必要がある。